

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～中間発表会に向けたルーブリック評価の理解と発表スライドの作成準備～

2. 本時の主題の概要および設定理由

前時までに、生徒は各自の学問分野・系統(自然科学、社会科学、人文科学、各種ラボ等)に分かれ、興味・関心に基づいて問いを立て、先行研究の調査やリサーチクエスションの導出、仮説の構築、検証方法の検討といった「研究計画」の策定を協働で進めてきた。

本時では、学年末に予定されている今年度の集大成となる「専門的課題研究中間発表会」に向けた具体的な見通しを持たせる。中間発表会では、自らの研究内容を他者へ客観的に伝えることを通じた「研究の途中経過の自己点検」と「発表スキルの向上」を重点目標としており、本時はその評価軸となる『課題研究発表ルーブリック』の評価観点を生徒に示すことで、目指すべき発表の到達度を具体的に理解させる。

その上で、生徒は研究計画の最終整理を行いながら、Googleスライドを用いた「中間発表用スライド」の作成へと着手する。本プロセスは、研究計画書(1)～(4)の論理性をスライドという視覚的表現に落とし込み、チーム内で協働的に表現方法を検討・評価し合う極めて重要かつ実践的な活動であるため、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **ルーブリック評価の理解と到達度意識:** 中間発表会の重点目標(自己点検と発表スキル向上)を理解し、提示された『課題研究発表ルーブリック』の評価項目(課題の背景、問いと仮説の適切性、発表の明瞭性、デザイン性)を念頭に置いて発表スライドの構成を構想できる。
- 2) **研究計画の整理と発表スライドの初期構築:** 研究計画書(1)～(4)の進捗状況を確認しつつ、指定の共有フォルダ内に中間発表用スライドを作成し、チームで分担して発表準備に着手できる。
- 3) **主体的かつ協働的な探究の実践:** 各専門分野の環境において、先行研究や事例からリサーチクエスションに取り組む意義を多面的に再確認し、教員からの個別助言を得ながら、協働して仮説検証プロセスを深化させることができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第23回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』
『専門的課題研究中間発表スライド』(共有ドライブ内のGoogleスライド原本)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)
『SS I 分野&担当教員一覧』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』、『課題研究ルーブリック表』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第23回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
5分	(2) 「専門的課題研究中間発表会」の目的およびルーブリック評価の概要説明の理解 - スライド(p.2-10)を通じて、学年末の中間発表会の目的(「研究の途中経過の自己点検」と「発表スキルの向上」)について説明を聞く。 - 本時配信された『課題研究発表ルーブリック』の手元資料を参照し、今回の中間評価で重視される4項目(①課題の背景と意義の理解、②問いと仮説の適切性、③発表の明瞭性、④視覚的表現のデザイン性)のポイントを理解する。	- 中間発表会が「今年度の課題研究の集大成」であることを強調し、5分間の発表時間を意識させる。 『課題研究発表ルーブリック』を各自しっかりと読み込むよう指示し、最高評価を目指して高みを目指すようモチベーションを喚起する。 - 今回は中間発表であるため、ルーブリック全体から上記4項目を重点評価観点とすることを明確に伝える。
3分	(3) 研究計画書の進捗確認、および発表用スライドの新規作成・初期設定 - これまでの研究計画書(1)～(4)の進捗状況を確認する。 - スライド(p.11-14)の説明に従い、各チームの指定共有フォルダ内に原本となるファイルをコピーして『中間発表用スライド』を作成し、ファイル名を指定の規則(例:A01専門的課題研究中間発表)に従って変更する。 - 発表用スライドがタイトルを含め4枚以上の構成(テーマ、背景、問い、仮説・検証方法)となることを確認する。	- スライド(p.11-14)を提示し、具体的なファイルコピーと名称変更の手順を指示する。 - 発表会の円滑な運営のため、使用ツールはGoogleスライドに統一し、外部ツール(Canva等)での作成は控えるよう強く指示する。 - まだ研究計画書が(4)まで完成していないチームは、まずそちらを完成させながら並行してスライド作成に入るよう促す。
23分	(4) チーム(個別)課題探究ワークの実践 『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記述する。 - チームごとにこれまでの計画を整理し、研究活動を進める。同時に、中間発表に向けて役割分担を決め、スライド作成に着手する。 - 特に「リサーチクエスションの導出のポイント」を意識して、自らの問いが「調べ学習」にとどまっていないか、先行研究を踏まえた意義があるかを検証する。	- 担当教員は各チームを巡視し、進捗状況をリアルタイムで把握・支援する。 - チームごとに個別面談等を行い、研究計画の概要を聞きながら、専門的・論理的な視点から個別に具体的な指導を行う。 「リサーチクエスションの導出ポイント」に照らし、特に「先行研究や事例から、そのリサーチクエスションに取り組む意義を見出せているか？」という観点に留意して指導する。
2分	(5) 本時の振り返りと今後の見通し - 本時の活動内容を振り返り、個人端末から『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 - 次回も本日の続きとして研究活動(計画書のブラッシュアップ等)を進めることを確認する。	『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 - 次回も今回の続きとなる研究計画策定作業を行うことを告げ、本時のワークへの取り組みを肯定的に評価(講評)し、長期的な研究活動に向けた動機付けを行う。